



身
子
控
帳

倍

15
1456
5



門 45
號 1456
卷 5

今日部之冊

三上藏書

早稻田大學圖書館
昭和31.9.27
藏書

見聞隨筆卷之六目錄

- 一 卷正院殿所行路之事
- 一 宏慶院殿所行路之事
- 一 卷西院殿所行路之事
- 一 平井貞系古實之事
- 一 竹田五右衛門別勢之事
- 一 佐川三之丞所仕事
- 一 吉川小市所仕事
- 一 石渡五右衛門孫新絶之事
- 一 推助藏文死所盜賊之事
- 一 小坂清兵衛所仕事
- 一 秀西新五郎横死之事



あり神の所始備年身魚水聲ありし。河東入して水
源女扱水死去あり。こまよより。去年母後守先成魚河
扱別水甚位懐寺綱成魚水娘。ありせらき河東入し
あり。世水後。國姫扱水誕生七奉り。姫路河東入し
二十八年の水年あり。河東移。奉。八寶永元年申五月
二十八日と作付たり。先まハ。女多中勢を補政成魚あり。水子
名若千亭魚六七奉り。村上。水入移。と奉り。
一宮表渡極是又所名君あり。河東路。小笠原氏記録。有
宝永二酉年江戸。して。河東生あり。敷貞極といふ。ハ。河
東君あり。改姫君青山修考。扱。と。古入虎姫君。酒井
雅樂。以扱。と。水入あり。流姫君。水野日向守扱。河東
礼あり。揚姫君。比谷靈。松院極。水巻女。と。奉り。未。水

年。不定。内。よ。水。逝。去。あり。是。ハ。國。姫。君。ハ。河。東。傳。前。考。扱
ハ。水。源。但。あり。是。ハ。處。傳。方。守。扱。河。東。病。業。と。奉り。水。娘。礼
方。水。難。縁。あり。改。姫。君。娘。の。内。庭。傳。後。考。也。ハ。水。娘。礼。あり
と。い。は。し。傳。後。考。也。河。東。持。不。匠。彼。是。水。子。入。し。上。終。り
水。難。縁。後。考。也。ハ。水。源。あり。虎。姫。君。の。娘。の。溝。口。位。傳。考。也
ハ。水。源。但。あり。是。ハ。先。扱。水。病。業。と。奉り。水。難。縁。未。水。娘
礼。あり。と。奉り。後。雅。樂。度。扱。と。奉り。こ。ま。よ。ハ。水。子。扱
多。水。出生。あり。是。ハ。國。姫。君。の。南。院。修。理。を。水。扱。ハ。水。入。り
終。り。水。子。扱。あり。修。理。扱。水。娘。後。考。也。と。奉り。水。出生。後。水。巻
子。よ。あり。是。ハ。水。水。後。考。也。と。奉り。水。姫。君。水。腫。業。の。水。娘。と
水。逝。去。あり。

同く世書より予より何世の時より
常憲院極序代の内行登城ありきより藤堂和泉寺
より一社の事ありし其形高地震強くして殿中
崩落ししうそ此列社の前中三なく序極側へ出ま
きりよ藤堂と政邦公此席代出立去ぬく此垢す
よりあやまきしよ社なく地着降りりれは皆元の花
へ出まりありりりよ世此古人に對し西目とあり人
らまじりりりや後よすしは藤堂と常より武藏
へねえ丈夫あり節きむや吾と出へくと思ふよりよ
終よ垢しありと此世しありし世又世方より
政邦公作下きし其節かへくと思ふしよ和泉
節きむをぬりこと又合より其内よ降りたり中

和泉と藤堂なる仁多りと此中と此より此勇氣強く
かこし侍しけり去りし此家中罷りりものす此仕立
と作舟此進放此暇ふと下り日八殊り分此したる上遊終
清不様縁序物とあり幸感りり共して此に愛除く
と成此社しあり常と和歌此歌と年中院通那師の此
舟より清系歌と少り此年中若う此世道書
敷考より小笠原信中ち色堀田伊佐忠色なと交り此歌
の此贈書より江戸より撰者ありし江と清住を
津島竹生清者清世社へ千首の和歌奉納考りよ
政邦公其の此勝書と中りり此和歌の内宋庭書
と云野より此りりを入り
庭の面いつりり此と此は此の清書なり
三

非路、てハ龜山本徳寺、船場中徳寺をトハ、山招清、よく
此然と極彼寺、よく水詠、奇なと救多、す、く、長志、手
て、り、ま、り、し、侍、り、代、の、也、公用、水、勅、と、遊
よ、し、終、よ、一、反、水、不、言、尾、ち、り、事、なく、駿、府、水、書、法
水、手、傳、京、越、 所、名、代、指、上、寺、水、蓋、屋、水、手、傳、日、光
所、用、又、元、禄、の、以、村、上、よく、 所、佛、殿、水、年、與、水、手、傳
何、と、水、振、子、能、水、節、ち、り、水、年、五、十、二、未、多、水、勅、暨、と、人、
中、り、水、詠、る、ま、と、し、水、病、身、と、方、よ、と、遊、水、水、保、養、水
水、所、と、あ、り、志、く、し、も、天、然、の、水、命、救、く、や、享、保、十、年、三
月、所、系、勅、と、遊、水、水、半、年、水、治、と、を、き、一、反、以、より
少、く、水、不、快、の、事、よく、水、套、成、と、折、く、よ、あ、り、水、り、
次、丹、よ、水、大、病、よ、あ、り、勢、よく、九月、水、病、成、く、勢、水、水、上、位、上

ま、か、水、書、よく、 所、冥、云、周、を、水、療、治、よ、あ、り、五、十、日、計、り
よ、と、一、反、水、快、氣、候、と、能、り、よ、又、水、水、返、く、水、陣、ち、り
し、り、け、を、ハ、栗、本、瑞、尼、を、水、某、よ、あ、り、け、り、瑞、尼、を、と
紀、妙、か、 有、徳、院、様、と、左、連、く、希、よ、水、例、へ、と、か、水、醫
所、名、武、社、太、補、禱、治、と、方、設、す、是、外、の、療、治、お、止、り、て、療
治、仕、と、候、よ、 上、意、布、く、水、奉、書、醫、の、格、より、ハ、重、く、お、す、
り、り、又、水、人、の、水、療、治、五、十、日、計、ち、り、く、終、く、水、快、氣、か、く
十一月、十日、水、遊、去、と、遊、け、り、諸、士、水、愁、海、よ、力、を、落、
け、り、水、言、候、ハ、播、砂、へ、送、り、て、指、位、山、よ、水、廟、を、建、ち、り
其、後、享、保、十、年、九、月、六、日、天、輪、院、様、水、遊、去、と、遊、く、是
水、遊、候、指、位、山、へ、水、婚、 同、法、殿、よ、水、細、く、と、本、水、世、尊、宏
者、院、様、ハ、水、路、水、在、城、よく、水、病、氣、重、く、勢、よく、水、伏、又、と、

少織と花しつた所遊去り来りまの所内城と事しつた遊
巖増位山へつた事しつた遊は出出と年増位とつた遊
花けりつた天輪陀極とつた賢女ありとつた事しつた遊
一平井より系ハ政倫公の弟時出抱つた射藝妻しつた日
置流の村多あり伊豆忠系正實日置流の所範せし
りつた元と平井の赤子しつた傳授つた極めつた事しつた
所原仲しつた元祿の姫めしつた法士は流は多く移つた平井
雪高弁林の敷皆こましつた表つた定系ハ他家へも名
を去つた事しつた人あり命と古實の名言つた事しつた或ん
年親世を又源川しつた一世一代の勅進帳を教つたつた執り
せしつた諸大名流は機敷の地を親世の法しつた事しつた何れも丁
寧は機敷しつた事しつた世方とつた機敷おまると政倫公

いさしつた赤幼年しつた事しつた遊あつたつた明も出んつた
るつた事しつた其用念つた定系所用を法しつた事しつた釣籠
たつた返つた表を内へつたかけたりけり隣機敷の役人
定はつた古實は妻しつた事を知りてやつた事しつた裏の方を
表はつたおまもりや表つた行要ありつた世釣籠の掛板はつた
あつた事しつた又右の定もつた弱しつたは定系他家もつた家
の七本末りしつた古言とつたつたつたも勅進帳の機敷ハ内は
貴人しつた事しつた内を表しつた事しつた音もつた畢竟すつた而機
樂の赤もつた事しつた機敷もつたも奈木の神お板とつた遠公ハ内へ
表を向つた事しつた古実つたと答へつたつたの外威公しつた釣籠を
又つた事しつた夫が其隣もつた是を足す又其隣もつたつた忽機敷中
石砂又つた事しつた是定系言名つたと事世の人語りつた

一竹田の事ありと力量ありて心も勇ましく丈夫ありて敵をへたなり
 力業普通通ふは毒くも甚なり其の内にも薬の強き業
 も多くをせり或年西村の言ありて子孫求むべき
 も明く厩の明なりも年の毒よりかゝりし事あり知る人の方
 よりて馬牽移るよりすし其馬け方は強くはへ赤言
 れともいひぬれ安んずるにけを牽移る事ハ業合は
 れとも厩珠の分悪し口取の表強縁よりよ付放
 けりその言も其命の事ありはいろ候えいふ一又
 候是能と西屋にて終よ世らひたり一ありて馬屋の表
 中ありは連も撥をありかたくは喰けんと厩の角をへひ
 所く飛付し肉用公法あり候はなり候はくは終よ

我も過ちをしてはわづらひ免と下はいと違ふ候ふも付
 けりも我もあはれくをえんと彌捕をえり候ふも馬
 はすくなく角よりくは口をゆけ飛付人候ひをせハ
 左の手を強く握りて言の口へむけ進みより馬
 立ちゆき彼より喰けたり其をのぶくは口の肉は
 辺りの音をのこしはよく痛めきりよ吾世に
 血出けり言ふれみくたたよ立駭きけり成太の
 手より下あじをばはれり志ありよなりし候ひれハ
 口血流せおたりよ言平是こと思ひくゆりし
 ても此のふハ弱は喰けりゆりも多し其は喰け痔止
 りたり吾世をえんと怖き事よ吾世をけ難き人
 是れすてねとたまはれ候は仕方なり候はれ
 六

しつらうけきよの次のりよは居たりし家来又亭主とて駈
をさすをり本とて焼け立とらんよ大下なる端幅
夜合ヨフマテといつりよ有らん其大下をみお尺程よりろり
より散くみまの口昌昌とてちて有りよゆなり化物と
是よりそきゆらむ世上一に早安懐せよや云れん亭主
殊の分悦ひ所然とて化物を賣の名のくれし是とて
腹人少をく所説の通り中陣腹を付る程より互に不世
のよ柳の才上の階より多りゆ津よ津然とて世に後を
腹人多くおれりゆへくはとて近隣の老女ゆきとて又せ
と世上に度く世に法をせ柳聖節池をよとて通しゆく
一佐川とて魚といへるう後より父を利たると云し其以
寺清戒とて魚弁助とて云未だ他在りしゆずりて浪人を

一益中村上道在 雪寺といつる寺の門前へ下りて大勢
集りて踊のまけりをも尺物又一面を踊りて自らけり
勢大勢の世に私案を始て手所へ遊りて川に居たり
然りよ若き老女風流は勢大勢の櫻痴案と云る娘と
と妙法ゆり好才の族すとて勢大勢のよ告たを津とて
身を心く又ハ世有へ渡たり上ハ面目をすまふ自教す
るうのつきよも覚悟有りへまると佛りの風流よ透ぬる変
ありハ公儀へ中折れ乳と下は極よすへいと云りよ時
とて路より管をやとて変なりと見滅しとてを娘の控並
程よりして別上へ程をおきれハお味有りよ勢大勢の方へ
すへたるハ松山彦助とて多りよ竹別彦助とて評説所へ
お海州年考中 中老中一たしとてお前をお召ゆりよハ

いせの法やて出けぬ手林の関所を越え三ノ宮六切後と云
るをすすも秋の介母命あり休よ及入しと云ふり多の可存
有けりや後人の言しも娘の法も世すしと先母の事
尋しも所より法もす所しと完悟よとすし。同族の
此仕重の扱よすし。其害なくありたると風流せり
一吉川小市島と法事後すし。有し身法悪法勝手もす
り抑し。難儀の上悪法すし。秋の末村上道不
の存あり。新物成出れと手形も返すし。又すし。新法
を治すし。是より新法も百姓の男世百姓よ志たし。其
考形も。青島本氏よ形も。元来も此年交り。拂
か。お勢も。床も。いと。格も。あて。は。ざ。り。ん
禮も。云。是。也。其。家。を。立。お。降。り。か。道。より。立。降。り。て

中けり。是。彼。是。事。と。抑。し。其。内。よ。志。ま。て。鼻。紙。袋。指
垂。降。り。を。道。す。し。思。ひ。お。し。たり。其。の。紙。入。お。い。つ。と
中。々。よ。事。も。此。紙。入。と。此。金。も。く。も。中。々。よ。氏。達。ら。た。し
金。たり。とい。つ。ま。す。其。紙。袋。こ。の。後。取。り。よ。元。来。何。れ。の。有
し。手。紙。も。さ。し。此。紙。の。返。り。も。取。り。よ。其。此。紙。を。く。い。か。り。て
此。紙。も。や。と。い。つ。も。秋。の。介。い。う。て。慥。よ。此。家。よ。立。志。し
たり。内。よ。金。も。さ。し。入。並。し。多。り。是。形。陰。係。し。て。お。ま。へ
金。子。斗。り。し。て。も。お。し。つ。と。中。々。よ。元。来。何。れ。の。有
て。も。此。家。よ。此。紙。を。し。し。事。の。あ。り。る。是。紙。を。入。り。し。て
亦。く。終。よ。百姓。し。し。人。兼。奉。り。し。し。所。の。お。り。奉。り。し
仕。方。を。く。老年。人。に。さ。し。夫。が。其。自。甘。を。以。て。其。紙。袋。を。し。し
紙。の。同。族。の。事。し。し。け。り。と。傳。り。よ。傳。り。村。上。劫。解。由。な。事。の。い

危々町中、山内鑿ちりしよ、所感えりても終り其去
おろり、はま中々より、其後、石波の島封
絶不便ありとて、名流又人扶持と有り、所業とて遠る
半舟舟見多し、人扶持ありて後、所業公雅上猪手云
後難く、山内上浪人、依り、永く家名継承あり
一推助、感所代官勤し、村上、原上川、色交死、下の村ら
寺へ、強盗、数千人押入、任修を、ぬめ、沙弥、小僧、まて、悉く
縛り、寺中、跡、人法道具、金所、と盗、其、上言、寺よ
覆外、一、候、て、其、作、言、語、同、封、の、り、を、れ、も、一、在、座
百姓、も、怖、き、て、考、法、久、村、方、の、を、古、り、て、先、村、上、を
行、不、へ、強、進、し、たり、ま、所、中、進、し、所、代、友、を、と、き、て、石
捕、詮、協、極、し、助、危、れ、老年、と、り、波、足、輕、氏、數、多、引、具、し

喉托
小徳宮

行たりし、所、降、下、の、十、五、六、里、も、有、く、翌、日、晚、景、よ、到、着、し
有、修、預、子、以、尋、禪、し、し、捕、手、來、り、よ、し、を、守、り、や、何、方
一、り、引、行、たり、居、り、不、も、何、者、と、云、事、も、考、り、考、色、さ、り
り、依、之、村、上、へ、中、進、し、け、れ、ハ、為、詮、協、極、泥、を、足、り、色
け、り、考、り、考、九、五、六、里、と、盗、人、は、遠、方、へ、考、り、ぬ、人、冊
上、を、明、經、ハ、仕、込、り、村、上、へ、後、と、中、付、考、り、考、り、り、り、
改、し、て、村、上、道、筋、も、先、觸、し、たり、り、り、考、り、り、其、考、り、
よ、事、と、盗、人、の、内、者、人、訴、入、し、り、中、り、り、も、我、ハ、口、難、
し、所、再、考、り、り、罪、を、以、免、し、り、り、り、考、り、考、り、上、へ、り、
鷹、英、と、し、り、金、子、と、り、下、地、囃、泥、と、題、よ、り、り、考、り、
秋、木、と、り、難、よ、り、つ、是、中、上、の、仲、り、一、波、し、り、り、夜、是、へ、押、多
囃、泥、令、を、奪、を、た、へ、り、り、大、勢、と、考、り、り、大、概、の、美、を、

近きを止たりと。侍兵たる助虎を喰ひ足輕者も投明り色
ハ静し出是し村上りけ。相訴人ハ村上りて御命を
色其上彦院へ金子と下て追取せしむ。後より盗人ハ
盗人ハ訴人の過を侍兵と少敷。金子も奪ふたる
と有り。庭室の以多りしとす。

一 小坂河原母の助平と遊寇ハ河原ありハ切府の上為
と一助平ハ刃心たつといつ。嫡子ハ歩行しとす。一
若遠の坊より意態を合々助平ハ河原に侍を付け
よ。一風況中多りの河原元方の老ハ助平を奪取し
る根ハ沙汰有け。世説を助平ハ人ハ付らハ河原其
侍ハ射。一侍候を捕らりて討果ん。早く渡りし世
沙汰多しと告名とせけ。助平血氣流し男とて河原に

我亦を討人の存しよ。ぬすし。公安く侍り。我ハ河原
と後ハ人侍り。世のまじり。一河原に河原沙汰法よく
好身の老も案を付て此以す。人ハ公付らハ河原に
ハ如や。一河原法有け。一老早懐忌す。人ハ多し男道よ
かり。言類より世の上のなまじり。恥し。言。福。公。名。凡
助平と丈夫あり。のまじり。容。名。ハ。う。た。り。侍。と。思。ひ。と
幸。よ。公。を。り。免。け。世。方。ハ。名。取。遠。く。一。指。け。り。よ。助
平。多。り。て。世。道。へ。お。ぬ。し。と。流。し。一。河。原。物。々。公。を。も。り。え
と。同。及。し。て。世。道。取。返。取。運。立。歩。け。ハ。名。々。先。立。と。行
り。よ。河。原。河。原。人。と。せ。す。お。り。ハ。名。を。福。く。ハ。老。と。す。我
を。何。と。し。て。付。け。り。と。公。を。い。つ。と。河。原。物。在。の。中。ハ。世。説
の。あ。ぬ。の。危。し。用。公。め。り。ま。よ。と。余。而。言。よ。云。け。り。侍。

一社よ辰合せたる面と却とくうらむく事せもくもくあり有
し兼る朋友の考たしき法に合たる中分世り起りし其
ハ且言ふ古家の親款に今ハ遺棄するものと考言をり
所を也所於並難く福を公しう其能おるをなくさる
けりよ勘平江戸在昔のたうて追り出是するよりより
一久所を公せり其彼是と必成のり公し。明能お立
と云ふよりしうに今も世限り計考人の世に重し
男も立難しと解する公けりく其勘平不の眼をよ
行止りお合するなるのり其目も考く勘平伯父跡
系助在方へ眼をよけり所又と其向ふ屋を八宮川
流るる世門の下は牙をよせく勘平の宅の神を立す
すくよ家内の考え送るゆき。朱年目お返帰り朱も色

よと眼をすりよ百と眼く戸口を切る音しりれハ赤糸の門
の下へ牙をよせり。袴長たる以ハ赤糸の門。村上の考い
つりの通り跡来りて一尺計りも多傳りしり左ハ赤糸の門
大小の柄袋かけ合ぬの下は小を穿つけ何心取く助たる。門
を切る所を所を也歩居たり勘平も公たたりと刀を抜りけ
ら法にけおよ。うちしりハさすりよ心あり勘平も終よ
計建より。夫が所系其柄を立すりて追而よ伯父り
福為おをまといり彼方へ立すりて兼て志治り。あしり
仇勘平ハ只今計わし路ハ大小の柄よ刀の巧たり。うち
おしりしりしり。ねを安撫り。先く真へ入と依れ
すへ。去形り。刀のおきを於重と。人の考し。糸の毒く
我危と。竹さす。しり。其柄を時と。弱行し。雪ハ降

夜中よと有しう未々人も志すはるし刀のかきたるを搜
しかりし物りけり跡を扱ひ其抄をまおとく小笠原氏の人
を頼む所しよ心安く昔と隠し重冬の内何方も仍難
き旅春よ成とく江戸へまゝ其後却年才五人何れを
敵討よおたりし跡系何方へ隠きらん終り竹情知ま
すりくも之詮書あはしけを村上へ物りま後ハ弱り人
ありりりり跡を扱江戸かたりとハいへとも生元然走らたり人
多かりりり又却年ハ目尺八をよ吹と磨し揚揚
て吹時ハ必孤来りて庭ちよ踏り守居たり後ハ振の
上へ取らて静よ竹しハ却年も奇特の事よなりハ
折吹と竹て自らも樂しとたり跡系近く福を公
考又ハ途中よ竹あせまも時を何となく扱おと志す終

けり左別ら其言ハ用か志たりしと其後扱扱ひと扱言
わたりしよよとくとしそ又ハしは乃後にも扱言と其言ハ
たりと思か弱しうも意なき志けり扱言と志言ハ不佞と思
傳りす扱扱をぬまは鶏の肝ハ腹まきをも病愈りともり
何年鶏を求り肝ハ喰もんとありハしとも又元か年兼
其能をさしんる其以後尺八を吹とも昔ら又つりりり扱
死したりと志言しりり志言依と世言跡系ハ福よふり
志言さりしと元元たり却年ハ運の命たり竹言らりしと脚
友と慈良志言り
一 香島新の所とて香島又み所弁茶村上寺何妙清寺扱
を雪中ま過りりりり向ふハ北足狂舟舟よ其新を積り
川来りし香道細くしてよけかたく跡よ扱言りて

ありし様は自世あふりし方飲新の亭よりたきし瓦怒と
 世方ももよけつりし川かけたる事不慮にと此り少りも極
 王をりも大後よりすへく移けん杖をひく擲りけきハ
 世是輕新の亭をたきし投別新の亭が刀をたきし切殺
 けり新の亭一筋のいづくも殺さもたし足輕とてりし
 少荷を運ひりし瓦空力も擲りけきハ擲りけきハ男を
 とりし新の亭の刀を奪ひて切たりしと夫と並み妙
 法寺に去りて切殺たたりし道示分又五郎へ知れりけきハ
 別途去りし忘れせたる人後を切たりしと世論事の色
 大一刀切り根に時し傍りた体めりしと
 一 白井仙太郎の大板陣より野原川を渡りし白井をまたみ
 月々白井丸をりて同家へ村上分江戸在書節のり内礼言し

一 二階長屋より日列の夜も切をりしりくは時不意のり
 よく在りし周囲幸せり打音大次郎大徳を助といふは
 大次郎文長より江戸浪人し町屋に居けり世に
 会たりし是れは元々形抄の組合なり彼はす。内は
 家来の者二階に居りし捕へたり夫は村上の返りしと本
 礼言林持より筆を入りて夜更に居たり二之五年
 て静より平常の夜も切をりし夫は時をりしと夜
 更をめぐり家次放逐し居りしと村尾奔りしと地
 を自ら知りし妻も又村尾をりしと我はを籠へ入能
 戸前の渡をたきしとと利言ししと待必ず夜
 明けに静より二階の渡言を云ぬりしと平公は失
 しり又静より江戸早快とて夜更つかす物成り

泥濘を以て履きしり死して杖持方より家財終りけり
妻ハ廣瀬源重と名有り男女の子有女子ハ依又廣瀬勘十と
養女竹尾隼人并に養子にして跡取り男の子と他而も
けり古の大坂屋敷を助せしむる幸あり事なく掛け
るる年老く姫路御の大坂屋敷十番方へ戻りて世世活
ちり生涯を遂ぐるる大坂屋敷の所存も於て遠くぬきの
なまは長浪人不便も只今も泰正院様所目見七作御
けりおとろもむるおとろ少頼知し上下の只今とすへ
う財而悪妻其後漸くして十世世将二男初を養ひ
い極よとの事も終り世養子もあらずとむるおとろ書
物よりなり文章事と名有りハ世世御書子あり
一 中根源重と名有り父ハ中根八右衛門と名有り長山公の御

多能射齋と名有り跡取子大膳と名有り清原
中名高き共と跡取中量と名有り他其子源重と名有り不
惣と名有り村上と名有り家督取と勤めけり不惣と名有り
の考を言ひて悪く不惣と名有り中根と名有り盗をすも
お抱へる事あり近江源重と名有り色々の物盗盗來り賣
拂ひつゝ源重も用途後ハ色々の物盗盗廣く其
沙汰よりつゝ源重の扱ひして扱ひきえ其後ハ長谷を
かりて夫婦住長なり世上風流すきえ管る者あり
よして已く源重の御けと名有り是は依りて風流事なり
て公依へて不惣と名有り源重と名有り
一 源重と名有り電音切音の上番と名有り又源重と名有り
是は上番と名有り火矢と名有り元禄年中村上と名有り女中と名有り

妻もよく其の後の口勅免たりし根原と流するとする者
一 未の女中と密通する事ありて所詮係と居りたるは
不測はもや又十次をりしや一町連判の内へ此れは上
りり物よりと下連判の面、暫くのりり所詮係と及云隣下
の面へと、伊勢勅免しけり、二名たる所を又と他下
のりりし、右と通る所をりり同早の内より仲おす者
所とさつる所は役人、是にお番へ、是けり、是り所詮係と及、食
るり所詮係と及、是りたりと、其後よて占領する所、
りりは暫く、是りたりと、其後よて占領する所、
三、是たり、不常事となり、公戸口へ立り、是り、
りお番は、是り、内は飛込と、又、是り、
きと、奥さめ、是り、是り、是り、
と、是り、是り、

く一町の面、お番と、是り、是り、
を、是り、是り、是り、
と、是り、是り、是り、
り、是り、是り、是り、
り、是り、是り、是り、
と、是り、是り、是り、
と、是り、是り、是り、
一、是り、是り、是り、
有、是り、是り、是り、
り、是り、是り、是り、
系、是り、是り、是り、
相、是り、是り、是り、
十九

うちむき推ぶよお慰しよ菜園の内を掘かり成ゆみ平向
きほつとくく又んくときーうはき葉の内を走りおと追
けりよ掘掘き近行しをにみ下斗よして追尻尾を取
て引掘きよよ皆く家内朽く感しけり又或時是も
一回し杉木伐倒の友と一打連く樹派を喰りりよ皆若
きりのたき有し一官早冬よ多りたり犬を焚て路へた
むよめんなどよゆい合と物しよ道脇の村より打
言ん飼犬のおて乳付たり何葉を掘りて通く歩着よを
り足り尾尻えとく川にきも掘返り喰付んとせしを
首候しと人尾尻尻左ちまのまよ扭後掘れたけ滝く
あめ舟彼中道へおけりく滝く川にけりよ一丁付り行方よ
大死したりいづれか持ゆ料理志のひとと云りよ其の

盛んちりを感しけり又かきしよこいん或夜ゆしよお更
くとゆりりりよ阪聖馬場よと久世法善町掘の堀の上
よ何やん人又人多によくく足きハ掘の堀底の板の上
覆て指たりよを在けり突たり掘のたき杖をくく既
とかりよ西成月影よんくとおたりしようちをのしよを
おたりりの掘を堀を掘下り近たりりり入口かーくしお
換したりとかりをゆりてゆりりり一寝して目覚たり
よ胸くろしよおんへと羞入眼くしよ作よ伏たり上よ大
手多り入及の陣み平敷の上へおむいかりたりよとて有
り月元すし不敵あり男多きハ是を言よおたり掘の我
成おやんよとおわいよせんとなりんと起たりたんよ
ハ近行へし但るんよし夜更の内を走しよいかに其志か

たしつゝハ教を赤くいためんをとりかむ夜忘の由
よて拳を活し極りかため袖の透るるをちりりと赤た毛
ハ床柱へ拳をさしつけし痛きを交混りさし化物とい
つ地へおろしん己の拳の法よくいたして前後を忘印
あぢりけり夫が腫れてあやみりり漸十日けりよして愈
なりしとしかは血氣をさす有しは何れといつても大会
をして人の命を顧とせしり或付人とかけをいふ
殊汁の餅を一向と申折の大薬をを百を踏し以喰さす
り其夜よあり腹はよく張て少しも減る申折と腹
内よよほとをけりよや床柱をひらに若し女根と茶汁を
用ひしを食管て耳^名の尻後胃の脘破進たると又んと腹
にあつたりといひ音志たり終は其後よて死去きたり

一 洋は血氣の多しこと皆人きけり
一 寺内園と申と方なり是と夜并又を折り子なり元は
寺内理房といつる所醫者長山標^名付時代娘流よ指りり
伊豆文左衛門の妹をよして在在の志しゆとち人なり
しり理房よく死して後恙うりり尻折り方へ再
編してち人の子供に互進せりしり後又よ奉りし色衣
を貪りかきしりともち人の兄弟或病を學子文号よ分
ちよせしりり志しゆの志支教多しりり経書よ抱ひ
て跡文よ恙用なりしりりは年十八のひん學子文上達
して村上よと志しゆの志しゆの志しゆの志しゆの志しゆ
戸へおとし梅家へ志しゆの志しゆの志しゆの志しゆの志しゆ
り尻遠流進りしりりも志しゆの志しゆの志しゆの志しゆの志しゆ

亦も夫よ無言とて滅の名の如くにたり天取の御
物り。故よありと形んと行と入る松子をてして
一花半紙をりゆりて戯れ遊ひけりよりして
世矣名をを喚たりり年終るに古年歳は通りて
一合子活法なつと性者大久保越中守也よ初めける越
中守也ハ武藏惣務よりして元己き初術はよく技
さ色し其以名高き柳生十之傳也子也柳生但馬
守也志本新平港の達人本下は陸路也妙處遠に
也也何をも達人と云く合子元兼武藏惣務よりして
越中守也通りて武藏の川原人必経仕等よかて
板子をえん又ハ味おされ陸を刀と中より加最名人
の業をもえたりりり也也此も守たるより多

りとりや合子始めは志本新平丹子よりして惣務を志
り悲れも左カハ命もかたき物と海は初術と云
りのを只夫まよハ合腕のつよきと務物を 完悟
して惣務をやりて 丈夫ありりりををたたく自分
と扱ひ志けりハ夫或すは法本と法本は新牙は
た勢大務をうりて片もよて扱ひしけりよ六十程
振てしその腕の常速なり其完つて考へんりり
六十年亦合内ハ勝負と必背つてを速と是る
変是れりハ安徳して一古年務物をせりりり
君ぞく過初杯とて樂と志けりり或時代家の中
海り歩行の老と云ふしておと二三人引清和合り
よカ也人并よりハ陸よく公も強人なりしりおと

大勢なきを希収たあよを重く我ひし加りよ
換りし佛くぬす尼腕も弱り草部とありと是くけれ
是よりと迎も下はへくと業はをけまし踏ひて
切りよ一人の小僧を饅頭の方で色ほど切つぎ
此れは教へ血流をけりよ驚くと近たりしすし跡り
の老も公すこくや有りけん是も近り方々幸と漸
体より今少し間をある力もぬけ息も切るべき
危うししり外となりを是か又再を秘りたよか
以り希との秘りたの教は以自批行の印はり終り
妙西は自りを公秘あり事心悟り福集を公け
江戸東海寺の信和尚とるよ毎に教化を清和而別
秘術と世不遠をあるを秘術集と半をかき

何れ人佛地均し事変俗人の迷ひを悟らんおの一書
有りとして跡り是を分子たよも後々傳たり古
越牛者魚をたきしと秘術人よありきり兼て右
次公が親しく説きしと秘術流たの義を不便よ
する秘術をい石はをきと下は換り政倫を此幼年
の次と公秘術秘術秘術を説きたり後よ水
目付節の百五十石の上平石也加橋と下り巻子八平
此書の後よ夢伯久保田金七末の書有り其書隠居
刺髪して夢印と云けり刺髪志ける時詩奇もゆり
しり忘るるなり

一中川方兵衛江戸好才の方へ用事あり秘術書より
其書村上加賀所よ也助戸たつといつる老江戸性来

後世輩の世新言道中より行遊道連よりありり
の飛脚の者よんと重き荷物を林何やん箱よ入
たる物こそ包を寄舞よして内よと金子をと入
ちんとおぼしに林を切よして彼飛脚日夜馳
せりや仰はんとく深疑ひ川へ友人や合切殺し金
子盗盗よんと公を小野在連川原より夜の内よ宿
かお未明よ道より殺害し去るの下へ轉し落し
荷物を奪ひ去るとりり今よの取く箱の内よハ越
後名物を音物は楓燭百換斗り切りけるは飛脚の
腰浅斗り共五りり叔捨置とて友人を江戸へ送り
教しめりり彼手負治返り共ありくと去るを這り
りりりり道行人又くと亦の考よ去るもりりり

江戸在連川行人の道よまかして味尻り江戸在
連の在連は江戸へ手負も川原と半巻生りりりり
其後の上彼友人の仕業は極り村上へ手負加賀所のみ
人組えよと任後文部戸長に江戸は指より捕て来り
所きりりりり穿鑿をりりりりりりりりりりりりりり
す、彼飛脚の考おかしく射交させりりりりりりりりりり
終る罪よ落りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
落し付連のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
たりと控坐たりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
其身是情の神よ又りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
よ尻りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

河くくろりて物なりきし 若鷹よ治方其らくんて
れとせしるるう 空程立阿の 足在にれよ磔の下よ
手角を以て控腕衣星うけよすかーんし物も磔の柱へ
登りし其先人^中 既阿のいと中よははる 渠り元宗庵成
よ阿記をきく 居たり阿へ物りまのー一人姿志るは
し 若鷹を治方所とせしたりき 其情すくく之は
しと所を治方所とせしたりき 其方うふよてハ以治
しと思ひしーりよと欺き笑ひぬれハ 潤希毛以直^正
しく志く 左様でし信りよと友 渡柳の赤よ
根の登り 横木以て渡^正 漸磔の耳よはは明小よ
更阿返しして 系うい 嘘と只云し 明鏡得て世沈
上本よりしと 中よりよ 何事も 渠り 勇とまよ感入

なり世若市を以て男登りたり たるハ大悪人よもろ
へしと皆切りのせしよ十八及汁よと成く 玉極保くよ
心よき考よろりり 武士乃家も音培よろりしと
りせしよ後と買入よろりり 情き考とと治りし
一原田与治世の 二代目葉山孫助次男ハ大坂陣陣し
以と仁牛代友を勧めしはく 出供よ 石連ふれす
云書意のよ 思ひしと 山陣の修よ 老年ハ中よりよ
我未後 水代友 役務めぬ 山陣の修 三世ハ 辰世念
寺なれ 世と故子孫代友役ハ 水免可く 下は 世中立る
世考よ 木のく 友有年 亦や 山承知し 世は 後抄阿り
乃を 占法書 老年よ 及ひくも 子取くし 新田士高
丹以 養ひく 志所希と 希の 姫臨よ 代友と

信付るよ老父と活きぬの 来々友命より 恒恒して居る
の老中へ拜越る私交年々より 時々大坂所陣出候三仕
と縁成陸合より 存是偏より 代良役勤めぬり 居る
是是死出候より 依る其後出候より 上より 妙り留る
形より 出候より 下代より 上代より 百友の旨より 守り候
世及將を帝氣北代友と信付し 妙考家より 八上信百友
安を仕拜越る此より 遠感あり 矣より 出候より 下と候
一より 中上より 老中世後出候より 及ひの方より 有けぬ 早速出候
と年より 一徹あり 考より 有しより 七十年より ありて 老
病候を 既より 末期迫り ありて 時常代の 考志より
り 在りて 結核の 札より 有しより 札より ありて 之を早
出候生の ありて 竹をたかく 出候は 世上は 後生代 大より

思ふ念佛候出唱へ ありて へく 常々 念佛を 出候は
下より 一とも 逢途の 出候 是れ 札より ありて 出候へ
へと 勤めり 是れ 急角の 挨拶も せし
我と 只佛の 道も 志と ぬかり 飲明帝の 先の 代の人
と 一着を ぬき 出候 其後 死より けり とも
一李村原 出候 忠次公の 所代 結核 以来 年々 ありて 内
切切ホーと 徒者より 姫路より 凡 三年 四人 七切り 他
或付より 是れ 後に 切又 仰より 切り 刺殺し たり
るより 一と 公より けり 是れ 中道の 変より 百姓の 苦
以より 返り 一と 立仰の 胸より 是れ 編拵 取被む 祈の
あたりの 刺返り けり 一と 倒き 一と 時 顔色を
見より 一と 五より 一と けり 祈を 見より 不便より 札より 其

時の子の斬りて志うた有りは娘とて母のよりなり
乞附りて宮早世に故ふ川とおやむへしと云よ誓ひ以
かやめけりともなり娘を人持く後妻死よは是れ後妻
松求りしともしお意のおもねく然しけり指証^後松
行変りしと京朝の御下しりし池小路大納言の娘君
成産たりし女中て然方も所しと老を伴大納言
と云しすし^後松求りしと京朝の御下しりし池小路大納言
妻よるしたり是よ男子二人女子一人なり兄を伊豆
吾在る事い後し勢在るといふは是れ次は松求りし
貴子なりなり是れ市見たりと云婦女よと松下左太夫
左太夫の貴子なりして家督の流きり其子原と云
其子原は是れ幼少しとて父よ離れて二百以上の知り

半掃しなり百石ありなり若死して其子決て市見^幼
八人扶持しなり是れ世に斯く所新法お事く^以扶持
方よりなりなり未^多市見も云ふは病身なりして去近
家勢終り及ぶなり彼中無不仁あり爰大^多なりなり
多しゆき^後松求りしと京朝の御下しりし池小路大納言
伊豆宮の一而し^後松求りしと京朝の御下しりし池小路大納言
一伊豆宮^後松求りしと京朝の御下しりし池小路大納言
子より^後松求りしと京朝の御下しりし池小路大納言
て伊中老より^後松求りしと京朝の御下しりし池小路大納言
後し彦系是れ伊中老勤めけり壯年よして死す
其子玄菟若死し子伊豆宮之水乃春子よりなり若人
云是れ其子^後松求りしと京朝の御下しりし池小路大納言

亟_レ止_レ了_レ是_レ又_レ早_レ世_レして_レ寺_レ坊_レ成_レし_レ亟_レ才_レ公_レ養_レ子_レを_レて_レ
後_レ考_レ勳_レと_レ去_レ修_レ祿_レ減_レ一_レ巨_レ石_レよ_レち_レり_レ也_レ以_レて_レ北_レ城_レ代_レ
又_レ上_レ信_レ甘_レ其_レ子_レ之_レ後_レ後_レ為_レ九_レ為_レ也_レ教_レよ_レる_レり_レり_レ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

跋_レ東_レ林_レ煥_レ然_レ言_レ之_レ發_レ歎_レ直_レ求_レ可_レ也_レ乎_レ觀_レ於_レ此_レ
夫_レ譚_レ者_レ示_レ人_レ而_レ以_レ傳_レ一_レ時_レ錄_レ者_レ萃_レ言_レ而_レ以_レ
遺_レ百_レ世_レ也_レ不_レ錄_レ則_レ雖_レ百_レ有_レ譚_レ以_レ隔_レ時_レ日_レ以_レ
經_レ歲_レ月_レ至_レ世_レ殊_レ事_レ異_レ而_レ則_レ先_レ後_レ虛_レ實_レ邪_レ正_レ
是_レ非_レ區_レ々_レ紛_レ々_レ而_レ偕_レ隨_レ而_レ消_レ却_レ也_レ況_レ又_レ百_レ
代_レ之_レ後_レ乎_レ可_レ謂_レ不_レ可_レ以_レ不_レ錄_レ也_レ是_レ後_レ之_レ視_レ
今_レ亦_レ猶_レ今_レ之_レ視_レ管_レ所_レ謂_レ載_レ道_レ而_レ橫_レ行_レ于_レ天_レ
下_レ古_レ今_レ者_レ也_レ矣_レ蓋_レ竹_レ尾_レ清_レ全_レ閑_レ松_レ軒_レ曠_レ雲_レ
老_レ人_レ博_レ覽_レ多_レ識_レ而_レ記_レ億_レ秀_レ群_レ無_レ人_レ可_レ敢_レ當_レ
者_レ也_レ時_レ之_レ人_レ以_レ美_レ之_レ爰_レ亦_レ有_レ年_レ矣_レ而_レ往_レ々_レ
對_レ人_レ則_レ必_レ好_レ爲_レ譚_レ終_レ其_レ端_レ坐_レ不_レ倦_レ滔_レ々_レ乎_レ
如_レ流_レ最_レ奇_レ舌_レ妙_レ語_レ屢_レ使_レ坐_レ傍_レ驚_レ歎_レ且_レ或_レ德_レ

業或義氣或豪勇或智力或凶惡或怪異
或武威以緊不遑屈指頭也頃日曾我
使君家藩籬歷歲中膾炙人口之世譚
拾洩記殘耳萃而以述之雖譚尤繁華而
事蹟不齊頗令所以攜翫兵家之事多自
成童弱冠篤武事猶且可謂有功百代不
易之上而不少矣一日閑話餘閑苟出稿
而以見示予曰嗚呼翰篇之言雖以糟粕
示相公只與骨朽不如錄言而有補于後
世也後之覽者將有感於此書可謂為人
謀而亦不忠乎曠雲翁曰且跋于終手否
予曰於戲錄言之後復言于何乎雖然又

唯不可以不稱也莫已則夫文乎寧其舉
於前孰若無毀於其後也因而以謾採毫
於荆棘野窻之燈下而夜將半行人微吟
而過殘雪擁戶牖檐月朦朧也即理硯
筆爾皆寶曆七年丁丑春二月
高田九率山人川口源直英誌

